

『野生動物医学への挑戦 — 寄生虫・感染症・ワンヘルス』刊行！

浅川満彦（酪農学園大学 獣医学群 獣医学類 感染・病理学分野 医動物学ユニット / 野生動物医学センター WAMC）



前号のニュースレター「教えて！先輩」で、私は在宅ワークでの課題について問われ、本の執筆を例示した。実際、そのアンケートがなされた時期、拙著『野生動物医学への挑戦—寄生虫・感染症・ワンヘルス』（東京大学出版会、2021年6月刊予定、定価3,190円）の執筆の佳境であったのだ。そして、それが皆さんにお届けできることとなったので、ごく簡単に紹介をさせて欲しい。

本書は「私は寄生虫学および寄生虫病学を専門にするが、その研究者人生の半ばで野生動物医学という別の学問を兼任（中略）感染症全般と関り、結局、野生動物医学が獣医学あるいは生物科学の中で、どのような位置付けにあるのかを模索しつつ、この分野を根付かせることに挑戦（後略；「はじめに」より）」した記録である。その過程で、学生にとって関心のあるゼミ選びや卒論、その後の就職についても詳細に言及した。是非、本学会学生部会の皆さんには読んで欲しい。

また、すでに社会人として動物園・水族館、エキゾチックや鳥の診療はもちろん、生産動物や伴侶動物関連で活躍され、日頃の業務で感染症や寄生虫病に悩まされる方々は、多くの具体的な症例報告（若干、鳥類に軸足を置いている）が参考になろう。参考文献も完備しており、一般書を超える事例を詰め込んでいるからだ。

参考に章題と大項目を列挙しておく。

第1章 寄生虫はどこからきたか

1.1 寄生虫学事始め

1.2 研究の方向性を決める

1.3 宿主-寄生体関係の生物地理

第2章 野生動物学を教える

2.1 獣医学領域の野生動物

2.2 野生動物医学とは

2.3 より高みを目指す野生動物医学のために

第3章 野生動物に感染する

3.1 病原体と感染症

3.2 ウイルスによる疾病

3.3 細菌・真菌による疾病

3.4 野生動物の死因はなにか

第4章 鳥類と寄生虫

4.1 鳥独特の寄生虫病

4.2 原虫・蠕虫による疾病

4.3 節足動物による疾病

第5章 野生動物と病原体の曼荼羅

5.1 外来種介在によるいびつな関係

5.2 多様化する衛生動物

5.3 感染症研究の縦割りは世界を滅ぼす

第6章 次世代へいかにバトンを渡すか

6.1 まず、働かないと……

6.2 研究と啓発の両輪で

6.3 今後に望むこと